

## ダニ媒介性疾患に注意

～春から秋にかけ、マダニの活動が活発になります～

- マダニに咬まれることで病原体に感染し、日本紅斑熱や重症熱性血小板減少症候群（SFTS）などの疾患にかかり、重症化することがあります。すべてのマダニが病原体を持っているわけではありませんが、マダニに咬まれないための注意が必要です。
- マダニは比較的大型（吸血前で3～4mm）のダニで、主に森林や草地等の屋外に生息し、日本でも全国的に分布しています。
- このほか、ダニの仲間であるツツガムシの吸血によって感染するつつが虫病も毎年複数例報告されています。
- 外出するときは、以下のダニ予防に努めましょう。



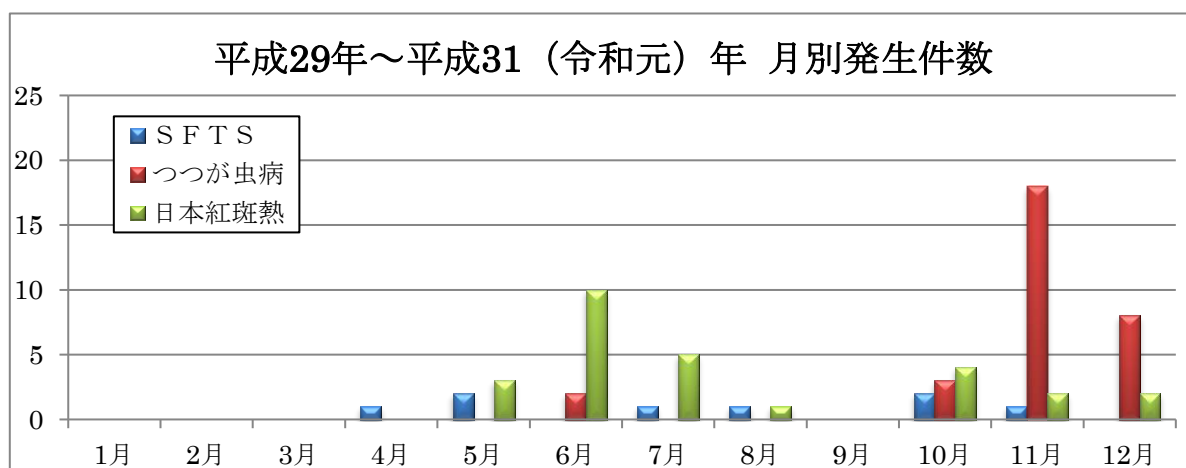
フタトゲチマダニ

国立感染症研究所昆虫医科学部提供

### 【ダニ媒介性疾患の予防対策】

- ① マダニに咬まれないことが重要です。
- ② 森林や草地などマダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴などを着用し、肌の露出を少なくすること。DEET（虫よけ剤の成分）を含む虫よけスプレーも有効です。
- ③ 屋外活動後はマダニに咬まれていないか確認すること。
- ④ 吸血中のマダニに気がついた際は、速やかに病院で処置すること。
- ⑤ マダニに咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、病院を受診すること。

※マダニは、衣類や寝具に発生するヒョウダニなど家庭内に生息するダニと異なります。



（裏面あり）

## 《ダニ媒介性疾患》

### 1. 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

○症 状：原因不明の発熱、消化器症状（嘔吐、下痢等）が中心です。時に、頭痛、神経症状（意識障害、けいれん等）、呼吸器症状（咳等）、出血症状（紫斑、下血）を起こす。

○潜伏期間：6～14日

○治療法：有効な抗ウイルス薬等はなく、対症療法が主体となる。

#### ■熊本県での発生状況

年	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
発生件数（件）	4	1	1	1	1	5	2

※平成25年3月4日から全数届出疾病に指定。

### 2. 日本紅斑熱

○症 状：発熱、発疹、刺し口が主要三徴候であり、倦怠感、頭痛を伴って発症する。発疹は体幹部より四肢末端部に比較的強く出現する。

○潜伏期間：2～8日

○治療法：抗菌薬の投与

#### ■熊本県での発生状況

年	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
発生件数（件）	8	20	22	20	18	11	19	14	7	6

### 3. つつが虫病

○症 状：典型的な症例では、39℃以上の高熱を伴って発症し、皮膚には特徴的なダニの刺し口が見られ、その後数日で体幹部を中心に発疹がみられる。また、患者の多くが倦怠感、頭痛を伴う。

○潜伏期間：5～14日

○治療法：抗菌薬の投与

#### ■熊本県での発生状況

年	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
発生件数（件）	11	8	7	9	9	11	20	10	10	11

（参考）厚生労働省ホームページ（ダニ媒介感染症）

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html>

熊本県健康危機管理課

感染症対策班

直通：096-333-2240